

第10回 東海村ピアノマラソンコンサート ～ピアノでつながる音楽会～



東海文化センターのフルコンサートピアノをたくさんの方に演奏していただく、ピアノコンサートを開催します。今回は60組の方々が、ピアノ独奏・連弾・アンサンブルで、ピアノの音色をつなぎます。ぜひお越しください。

10月4日(日)

**午前10時～午後5時
東海文化センター**

入場料▼無料(全席自由)

その他▼演奏中の録音・撮影は、所定の場所で主催者が認めた方のみ可能です。

問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)



ふるさと歴史
～自然を探して～

オニハマダイコン(鬼浜大根)

歴史と未来の交流館副館長(博物館長)

安嶋 隆

オニハマダイコンはアブラナ科の1年草で、北アメリカ北東部原産の外来植物です。海岸の砂地などに群生し、葉は厚く、茎は基部でよく枝分かれをして大きな株になります。花期は8～9月で、実は海流に乗って運ばれます。

環境省の生態系被害防止外来種リストに指定されており、生態系に与える影響が大きく、分布拡大の可能性があると考えられています。

日本では1982年に新潟県で生育が報告され、その後各地に広がっていきました。今では北海道から日本海側は島根県まで、太平洋側は千葉県までの広い地域で分布の確証が報告されています。

茨城県では1994年に旧波崎町で記録がありますが、当時は不明種として扱われていました。オニハマダイコンという外来種であることが分かったのは、6年後の2000年です。その後、県内各地の海岸で確認されています。

東海村では2015年、照沼の海岸に群生していた記録があります(写真①)。



【写真①】



【写真②】

ところが2026年6月には数株までに減少し、以前生育していたハマニク、コウボウムギ、コウボウシバなどが復活していました(写真②)。

東海村の海岸はナガバアキグミ、トウコマツナギ、ニセアカシア、オオフトバムグラ、アメリカネナシカズラなど、多数の外来植物が群生しています。これらの外来植物は現在でも増え続けていますが、オニハマダイコンのようにいつの間にか減少する種類もあるようです。

オニハマダイコンを含め、海岸の外来植物の生育状況を継続調査することの必要性を感じています。